

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立綾部高等学校 】

1 実践テーマ	【 III・V 】
2 実施対象者	スポーツ総合専攻1年～3年118名（男子76名、女子42名） 3年普通科102名（男子39名、女子63名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（体育・スポーツ概論）
4 目標 （ねらい）	オリンピック・パラリンピックの目的や意義を理解し、スポーツへの関心を持ち、生涯にわたりスポーツ文化へ関わることができるようにする。
5 取組内容	（1）体育授業でのパラリンピック競技体験 ゴールボールの競技体験を実施した。導入では、視覚がなくなることで自分自身の感情や運動機能にどのような影響が出てくるのかを実体験させるために目隠しをした状態で体育館を歩行させた。生徒の感想では、「音がこんなに頼りになると感じたのは初めて」「怖くて全く足が前に出なかった」など、視覚に頼らずに自分自身の体をコントロールすることの難しさを実感していた。 競技体験では、授業での特別ルールを作り、目隠しをしたプレイヤーの後方で動きを声で伝える「ガイド」を採用した。最初は声のサポートがあってもなかなか動けない生徒が多かったが、回数をこなすごとに上達し最後には勢いよくボールを投げたり、飛び込んでディフェンスができるまで上達した。 （2）体育理論でのオリパラ教育 体育授業の体育理論の中で、教科書や「I'm POSSIBLE」を活用しながら、オリンピック・パラリンピックの目的や意義、競技理解に努めた。
6 主な成果	授業でオリンピック、パラリンピックの映像を見せたり、競技体験をさせることで今までは関心のなかった競技にも興味をもつ生徒が増えた。
7 実践において工夫した点 （事業の特色）	パラリンピックの映像を見せて基本的なルールの確認をした上で、初心者が競技をやりやすくするためのルールを生徒に考えさせて競技をした。



<p>8 主な課題等</p>	<p>オリンピックイヤーで講演を予定していた選手が多忙になり、日程調整ができず、講演会を実施できなかった。また、昨年度に引き続きコロナ感染拡大の影響により、中丹支援学校とのスポーツ交流会を見合わせた。パラスポーツ体験など、来年度以降も継続してできる事柄を精選してやっていきたい。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>スポーツに興味を持ち、授業や生涯にわたって関わってくれるように啓発ができればと考える。 また、費用を必要としない方法で、スポーツを通じて支援学校等との交流を続けていける方法を考えたい。</p>